

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

年末商戦の前半戦は堅調、10～12月期の消費加速を示唆

11月の米小売売上高は大幅に増加し、10月も上方修正。家電や衣料品などが伸びており、年末商戦の堅調推移を示唆。10～12月期の個人消費は年率2%台半ばへ増勢が加速する見込み。

11月の米小売は大幅に増加

2013年11月の米小売売上高は前月比0.7%となり、10月の0.6%（0.4%から改訂）に続き、2ヶ月連続で大幅に増加した。自動車・同部品が1.8%と大幅に増加した影響が大きいものの、自動車・同部品を除いても0.4%（10月0.5%、0.2%から改訂）と堅調、また自動車・建設資材・ガソリンスタンド売上高を除いた、いわゆるコア売上高も0.5%（10月0.8%、0.5%から改訂）と高い伸びを確保している。

年末商戦は堅調の模様

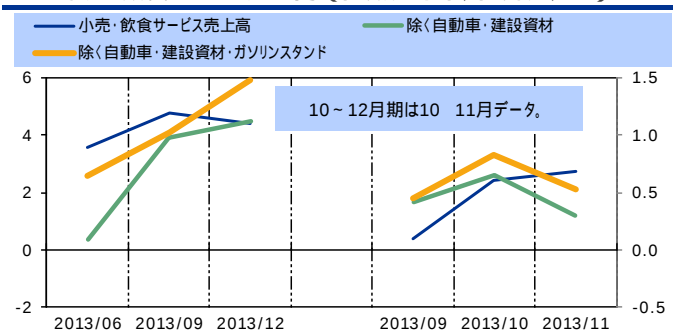
値引き時期の前倒しもあり、今年は年末商戦の動向が見極めにくい、11月までのところ、堅調との評価が可能であろう。商品別の動向を、10～11月平均の7～9月期対比を前期比年率に換算した値で見ると、電気製品20.6%（7～9月期5.9%）、衣料品6.2%（7～9月期0.0%）、家具14.9%（7～9月期8.7%）と年末商戦に関連する商品の好調が目立っている。

12月については、今年の商戦日数が短いというマイナス材料がある一方、ネットによる購入が急増するサイバーマンデーが11月ではなく12月となるなどのプラス材料もあり、見極めが困難である。ただ、11月までの動向を踏まえれば、多少12月が下振れしても、年末商戦は堅調に終わる可能性が高いと言える。

10～12月期の個人消費は増勢加速

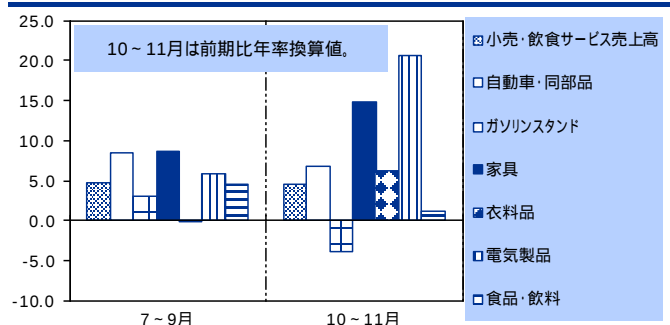
10月時点で、10～12月期の小売売上高は7～9月期の伸びを多少上回る程度と見込まれた。しかし、大幅な遡及改訂もあり、11月実績ではイメージが大きく変わっている。コア売上高で見ると、7～9月期の前期比年率4.1%に対し、12月に前月比横ばいを仮定しても10～12月期は5.9%、12月に過去1年の平均伸び率を仮定した場合には6.8%となり、10～12月期に小売売上高の増勢が加速する可能性が極めて高い。もちろんサービス消費次第の部分はあるが、10～12月期の個人消費は、7～9月期の前期比年率1.4%から加速、年率2%台半ばへ伸びを確保すると期待できる。

小売・飲食サービス売上高（前期比年率、前月比、%）



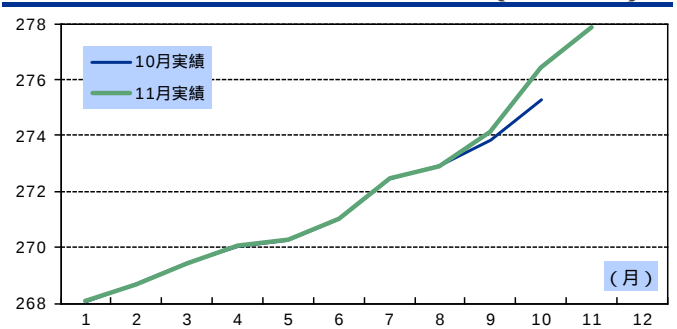
（出所）Department of Commerce

小売・飲食サービス売上高（前期比年率、%）



（出所）Department of Commerce

2013年のコア小売売上高の遡及修正（10億ドル）



（出所）Department of Commerce

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。